

文学論叢既刊分目録

(第101輯～第119輯)

第 101 輯 1992.10

パトロンの時代(覚書二) ——イギリス文化史の一面——	清水 一 嘉	1
フォークナー論『兵士の報酬』 ——宗教性を中心に——	山口 隆 一	23
サドとジャンヌ・テスタル事件	田 川 光 照	60
MOSQUITOES	山口 隆 一	94
—Needles of Fire and the Great Illusion— マーガレット・H・山口		
日本の児童演劇劇団の構造 ——経済と創造のはざままで——	四 方 晨	126

第 102 輯 1993.3

方法としての始まり(上) ——ヘーゲル論理学再考——	海老澤 善 一	1
『明暗』 ——構想とモチーフ(一)——	秋 山 公 男	19
助動詞「む」の意味(一)	和 田 明 美	41
——上接語・文脈に基づく多義性と「む」の意味との関係——		
パトロンの時代(覚書三) ——イギリス文化史の一面——	清水 一 嘉	63
フォークナー論『響きと怒り』 ——宗教性を中心に——	山口 隆 一	83
西ヨーロッパの巡礼慣習にたいする基本的視点について	河 野 眞	128
——特に日本でおこなわれている通念の修正のために(1)——		
L'EUROPE 93 (2ème partie)	セルジュ・ジュンタ	144
—Fonctionnement, Rayonnement, Perspectives—		
ボリス・ヴィアン著『日々の泡』 ノート(1)	浜 本 正 文	164
Flags in the Dust	山口 隆 一	182
—All Those Fool Pompous Men— マーガレット・H・山口		
Kangaroo 論 ——“the dark God”について——	山 田 晶 子	200
母音機械的認識の方法(言語音の行動について—6—)	高 安 芳 雄	228
高齢化社会における「社会福祉」の教育内容の考察(その1)	森 川 博	250
——生徒の意識と沢内村の調査から——		

第 103 輯 1993.7

鏡像は虚像か ——現われと實在の問題——	戸 塚 七 郎	1
方法としての始まり(下) ——ヘーゲル論理学再考——	海老澤 善 一	17

〈問い〉と授業コミュニケーション	長 田 勇	33
——宇佐美寛「教授・学習記号四段階論」批判——（上）		
バトロンの時代（覚書四）——イギリス文化史の一面——	清 水 一 嘉	55
Wie weit und wie tief ist Fremde wahrnehmbar? スザンネ・シュニッツェンベルガー		124
ドイツという問題——H. プレスナーの視点から——	土 屋 洋 二	144
胡椒商人に感謝される作家	田 川 光 照	156
——サドの「小説論」におけるレチフ攻撃の一節をめぐる——		
ラテン語第3変化名詞の分類	緒 方 登 摩	172
（付：第2の組の形容詞の分類）		
母音機械的認識の方法（続）	高 安 芳 雄	200
古書1695年版『オセロ』について	平 岩 紀 夫	220
日本の児童演劇劇団の構造・その2	四 方 晨	238
——ボーダーレス化の進行とその未来形——		
高齢化社会における「社会福祉」の教育内容の考察（その2）	森 川 博	258
——生徒の意識と沢内村の調査から——		
1992年度大学院文学研究科・中国研究科修士論文目録・		
文学部卒業論文目録・文学会賞授賞卒業論文要旨		79

第 104 輯 1993.10

鏡像は虚像か——現われと実在の問題——（承前）	戸 塚 七 郎	1
〈問い〉と授業コミュニケーション	長 田 勇	19
——宇佐美寛「教授・学習記号四段階論」批判——（下）		
フィールドワーク	印 南 敏 秀	43
アベラールとエロイズ『往復書簡』の真正性について	北 嶋 繁 雄	65
『しぐれ』の趣向二題——時雨の出会いと呪詛——	沢 井 耐 三	91
『明 暗』——構想とモチーフ（二）	秋 山 公 男	113
バトロンの時代（覚書五）——イギリス文化史の一面——	清 水 一 嘉	137
西ヨーロッパ巡礼慣習にたいする基本的視点について	河 野 真	184
——特に日本でおこなわれている通念の修正のために（2）——		
L'EUROPE 93 (3ème partie)	セルジュ・ジュンタ	198
——L'union Européenne : Le Traité de Maastricht——		
ボリス・ヴィアン著『日々泡』ノート(II)	浜 本 正 文	220
Concerning Dr Richard Ponsonby Fane and His Work on Shinto (Part III)		
.....ジョン・ハミルトン 236		
Aaron's Rod 論——“singleness”について——	山 田 晶 子	256
フォークナー論『響きと怒り』	山 口 隆 一	276
——絶望の喜劇 (1)/(1)(2)(3)——		

文学論叢既刊分目録 (第101輯～第119輯)

Trilogy, U. S. A. における四表現形体について	三浦 八千代	296
豊川における水資源開発の歴史とその問題点 (I)	松倉 源 造	334
——豊川の利水の問題——	樋口 義 治	

第 105 輯 1994.3

とてもありえぬこと ——ヘーゲルの必然性論——	海老澤 善 一	1
「貿易風」語源考	荒川 清 秀	17
「開音節の法則」の定式化に関する考察 (I)	原 求 作	50
時代的原風景論	竹 中 克 英	70
——ヴァルター・ファルクと潜在的歴史——		
ボリス・ヴィアン著『日々の泡』ノート (Ⅲ)	浜 本 正 文	88
ポール＝フェヴァルの “le Bossu” を読んで (I)	加 藤 俊 夫	108
Celtic Christian, Central Asian (Uzbek), Far Eastern Art	アイバン・コスビー	128
病気と言葉の関係	知 念 広 真	146
——「明治編年史におけるコレラ」について——		
D. H. Lawrence と “the invisible”	山 田 晶 子	162
——ST. MAWR を中心に——		
フォークナー論『響きと怒り』	山 口 隆 一	182
——絶望の喜劇 (2)/(1)(2)(3)——		
Three Soldiers under the Wheels (2)	三 浦 八千代	214
信仰と道	印 南 敏 秀	236

第 106 輯 1994.7

『三四郎』——視点と構図	秋 山 公 男	1
現代民俗学への視点をめぐって	河 野 真	80
——ドイツ語圏の民俗研究との比較において——		
ボリス・ヴィアン著『日々の泡』ノート (Ⅳ)	浜 本 正 文	100
フォークナー論『響きと怒り』	山 口 隆 一	118
——絶望の喜劇 (3)/(1)(2)(3)——		
ポスト・モダンの教育終焉論 ——再論——	太 田 明	138
1993 年度大学院文学研究科・中国研究科修士論文目録・		
文学部卒業論文目録・文学会賞授賞卒業論文要旨		25

第 107 輯 1994.10

フィールドワーク (二)	印 南 敏 秀	1
--------------------	---------	---

『夢十夜』の「潜伏者」	秋山公男	31
外からみた日本の民俗学	河野真	55
「開音節の法則」の定式化に関する考察(2)	原求作	94
L'EUROPE 93 (4ème partie)	セルジュ・ジュンタ	116

—Le Traite de Maastricht : Developpement—

千一夜物語とシェイクスピア	平岩紀夫	132
The Hero is the Metropolis, New York	三浦八千代	154
中国語の「V+起・来」をめぐって	靳衛衛	182

——日本語の表現との対照研究——

第 108 輯 1995.3

教育におけるパターンリズムの問題 —(1)—	太田明	1
日本の児童青少年演劇 '89-'94 (その1)	四方晨	21

——児童数の急減期の中で——

中国語の「V+起・来」をめぐって	靳衛衛	33
------------------	-----	----

——日本語の表現との対照研究(続)——

豪華稀覯本、ボイデル・シェイクスピア劇全集の鑑賞	平岩紀夫	57
フォークナー論『八月の光』——神々の喜劇(1)——	山口隆一	75
ボリス・ヴィアン著『日々の泡』ノート(V)	浜本正文	97
La gestuelle pour la communication (Première partie)	ベナブデラマン・ラッセン	119
L'EUROPE 93 (5ème partie)	セルジュ・ジュンタ	137

—Le Traité de Maastricht : Développement (suite) —

Komponentenanalyse und die geistige Situation im modernen Japan	竹中克英	157
---	------	-----

第 109 輯 1995.7

仮象と反省 ——ヘーゲルの本質論理 その一——	海老澤善一	1
「奥三河星座論」とその方法 ——山間集落の再評価——	藤田佳久	27
『虞美人草』——憎悪と復讐の文学	秋山公男	75
寸報 日本民俗学の歴史と現状	河野真	162

——問題提起に代えて——

La gestuelle pour la communication (Deuxième partie)	ベナブデラマン・ラッセン	190
フォークナー論『八月の光』——神々の喜劇(2)——	山口隆一	210
W. Lobscheid 小伝 ——《英華字典》無序本とは何か——	那須雅之	230
“果然”与“果真”	靳衛衛	242
高齢化社会における「人間としての在り方生き方」の教育内容 の考察 ——高等学校「倫理」科目における—— (その1)	森川博	262

文学論叢既刊分目録 (第101輯～第119輯)

〈文化と社会の交錯〉に関する解釈学的視点	杉 本 一 郎	294
——〈文化の比較社会学〉序説——		
1994年度大学院文学研究科・中国研究科修士論文目録・		
文学部卒業論文目録・文学会賞授賞卒業論文要旨		99

第 110 輯 1995.10

『門』——語り手の〈夢〉	秋 山 公 男	1
フォークナー論『八月の光』——神々の喜劇(3)——	山 口 隆 一	64
タクラマカン沙漠のオアシスにおける気候変遷・沙漠化と		
人間活動(1) ——農業的土地利用と農家経済——	吉 野 正 敏	106
	藤 田 佳 久	
	有 蘭 正一郎	
	杜 明 遠	
	雷 加 強	
タクラマカン沙漠のオアシスにおける気候変遷・沙漠化と		
人間活動(2) ——人口変化・気象災害——	吉 野 正 敏	88
海外・帰国子女の生涯キャリア発達	武 田 圭 太	128
——予備報告1: 在米子女の異文化環境の認知——		

第 111 輯 1996.3

矛盾と言語 ——ヘーゲルの本質論理 その二——	海 老 澤 善 一	1
序詞の機能と構造	和 田 明 美	21
——古代日本語における〈…の〉形式の序詞・枕詞——		
Un sujet: trois œuvres	セルジュ・ジュンタ	58
Passages Rendered "on ure wisan" in Ælfric's Homily on Judith	田 本 健 一	74
A Young Man Expelled from a 'Nation'	三 浦 八千代	100
日本の児童青少年演劇'89-'94 (その2)	四 方 晨	118
——作家と劇団経済をめぐる——		
海外・帰国子女の生涯キャリア発達	武 田 圭 太	138
——予備報告2: 帰国子女の評価と採用をめぐる日本企業の実情——		
高齢化社会における「人間としての在り方生き方」の教育内容		
の考察 ——高等学校「倫理」科目における—— (その2)	森 川 博	162

開学五十周年記念特輯(第112・113輯合併) 1996.11

瀬戸内海再考	印 南 敏 秀	1
--------------	---------	---

『歯車』『機械』——自我の崩壊……………	秋山公男	15
タウフニッツ・エディションについて……………	清水一嘉	41
神道の起源について……………	ジョン・ハミルトン	65
魂の概念について——ホーフマンスタールとリルケ——……………	新形信和	81
Die Darstellung sozialer Konflikte in Theodor Fontanes "Irrungen, Wirrungen"		
……………	サッシャ・ボルヒャース＝ラングリーガー	158
ペーター・フーヘル ¹ の自然抒情詩……………	土屋洋二	182
The Usage of 'Lovely' in British English :		
based on The Bank of English at Birmingham University……………	塚本倫久	190
Lilia Not Mentioned in Ælfric's Homily on Judith……………	田本健一	204
フォークナー論『アブサロム、アブサロム！』……………	山口隆一	224
——壮大なる誇大滑稽譚——(1)		
地理学用語の系譜(I)——中国洋学書を中心に——……………	荒川清秀	250
静・精神的家園——傳統文人心態之一斑……………	王建	272
文学・演劇・物語……………	四方晨	302
——イメージの架け橋としての“物語”——		
海外・帰国子女の生涯キャリア発達……………	武田圭太	328
——予備報告3：日本企業の評価制度の虚実——		

第 114 輯 1997.3

「英米作家叢書」の歩み……………	清水一嘉	1
——タウフニッツ社の歴史とともに——		
神秘思想序説——比較思想の見地から——……………	新形信和	21
Le Monde et Les Mots dans la poésie de Francis Ponge……………	セルジュ・ジュンタ	98
フォークナー論『アブサロム、アブサロム！』……………	山口隆一	118
——壮大なる誇大滑稽譚——(2)		
'The Visible City' and 'The Invisible City'……………	高原隆	158
——A Case Study of Bloomington, Indiana in U. S. ——		
LOBSCHNEIDER の《英華字典》について……………	那須雅之	184
——書誌学的研究(1)——		
地理学用語の系譜(II)……………	荒川清秀	214
——中国洋学書を中心に——		
清静・無爲・治國……………	王建	232
海外・帰国子女の生涯キャリア発達……………	武田圭太	246
——予備報告4：中学校教師の帰国学生への印象——		
開発事業と地域環境汚染……………	樋口義治	256
1995 年度大学院文学研究科・中国研究科修士論文目録・		

文学論叢既刊分目録（第101輯～第119輯）

文学部卒業論文目録・文学会賞授賞卒業論文要旨 37

第 115 輯 1997.9

哲学と宗教 ——世界の二重性に逆らって——	寄 川 条 路	1
『白痴』『ヴィヨンの妻』 ——倫理の解体	秋 山 公 男	17
「英米作家叢書」の歩み（その二）	清 水 一 嘉	43
——タウフニッツ社の歴史とともに——		
フォークナー論『アブサロム、アブサロム！』	山 口 隆 一	130
——壮大なる誇大滑稽譚——（3）		
Falconry and English Literature	アンガス・マッキンドー	148
"Hexham Road" in the City of Reading		
——Hexham Derived from Anglo-Saxon <i>Hagustaldesham</i> ——	田 本 健 一	156
L- and R-Vocalization in Southern British, Past and Present	木 村 和 夫	168
中国民間節日習俗札記	王 建	184
劇場史の視角を探る	四 方 晨	204
——公共ホールの現在を考えるために——		
海外・帰国子女の生涯キャリア発達	武 田 圭 太	228
——予備報告5：総合食品製造会社における 管理職昇進までの勢力獲得経験——		
1996 年度大学院文学研究科・中国研究科修士論文目録・		
文学部卒業論文目録・文学会賞授賞卒業論文要旨 63		

第 116 輯 1998.2

根拠と物——ヘーゲルの本質論理 その三——	海 老 澤 善 一	1
清朝中期以降の淮河流域における水害変動	藤 田 佳 久	31
『破戒』『蒲団』 ——苦悩と弱性	秋 山 公 男	55
雨の詩人 陸放翁	三 野 豊 浩	83
「英米作家叢書」の歩み（その三）	清 水 一 嘉	107
——タウフニッツ社の歴史とともに——		
日本人の思考を決定している死生観について	新 形 信 和	127
——『城の崎にて』再考——		
Pragmalinguistische Analysen zum 'Lyrischen Ich'	シモーネ・シーダーマイヤー	178
フォークナー論『アブサロム、アブサロム！』	山 口 隆 一	202
——壮大なる誇大滑稽譚——（4）		
The World Discrimination by Gender	高 原 隆	224
——A Case Study of Senior Citizens in Albany, New York——		

Intercultural Communication in English Education as a Foreign Language

—A Case Study: Reading Univ. Seminar—	平尾節子	246
LOBSCHIED の《英華字典》について	那須雅之	272
——書誌学的研究(2)——		
学校間の「接続関係」に関する覚え書き	佐々木 享	290
——近代日本の高等教育における入学者選抜制度史研究 序説——		
海外・帰国子女の生涯キャリア発達	武田圭太	304
——予備報告6:日本企業で機能する「有能」の特性——		
ミード思想体系の発展過程について	加藤 一己	324
——G. A. クックの所説の批判的検討を通して——		
個人セラピーを受けながら平行して複数回グループに参加した		
一人の青年の成長過程に於けるグループ体験の意味	木村 易	348
Actingout を起こしたエンカウンター・グループ事例をととして(その2)		
『弁明』におけるソクラテスの知の表明	伊集院 利明	370

第 117 輯 1998.7

現象と相関、破綻した論理	海老澤 善一	1
——ヘーゲルの本質論理 その四——		
体系への道——初期ヘーゲル研究(1)——	寄川 条路	33
「英米作家叢書」の歩み(その四)	清水 一嘉	61
——タウフニッツ社の歴史とともに——		
Voraussetzung lyrischer Anschaulichkeit: deiktische Verweise		
oder kulturelles Vorwissen?	シモーネ・シーダーマイヤー	148
	ヨアヒム・シーダーマイヤー	
フォークナー論『アブサロム、アブサロム!』	山口 隆一	190
——壮大なる誇大滑稽譚——(5)		
Inductive and Deductive Discourse in Japanese		
and English Speakers: A Pilot Study	三川 克俊	216
海外・帰国子女の生涯キャリア発達	武田圭太	242
——国内子女と在米子女の有能感(1)——		
個人セラピーを受けながら平行して複数回グループに参加した		
一人の青年の成長過程に於けるグループ体験の意味	木村 易	274
Actingout を起こしたエンカウンター・グループ事例をととして(その3)		
ソクラテスは論駁法の役割をいかに理解したか	伊集院 利明	298
——『メノン』篇再考——(その一)		
1997 年度大学院文学研究科・中国研究科修士論文目録・		
文学部卒業論文目録・文学部賞受賞卒業論文要旨		81

第 118 輯 1999.2

現実と自由, 人間存在の論理	海老澤 善 一	1
——ヘーゲルの本質論理 その五——		
体系への道——初期ヘーゲル研究四——	寄 川 条 路	27
『雪国』——美の構造と方法	秋 山 公 男	51
淳熙五年の陸游・范成大・楊万里	三 野 豊 浩	73
「英米作家叢書」の歩み (その五)	清 水 一 嘉	95
——タウフニッツ社の歴史とともに——		
M. L. Kaschnitz: „Der Strohalm“ —Gender Studies und textuelle Voraussetzungen für ein Lesergespräch	シモーネ・シーダーマイアー	140
Les Vins dans L'histoire et Petites Histoires de Vins	セルジュ・ジュンタ	160
——Première partie——		
フランス語品詞タグ付きコーパス作成における若干の 問題点について	中 尾 浩	174
Performing FTAs: Are the Japanese and the British similar or different? ..	三 川 克 俊	188
Some Aspects of Estuary English	木 村 和 夫	202
三皇五帝夏禹先秦資料研究	中 島 敏 夫	220
——《三皇五帝夏禹先秦資料集成》序論, 凡例並びに 文献資料一覧 (初稿) —— (1)		
海外・帰国子女の生涯キャリア発達	武 田 圭 太	236
——国内子女と在米子女の有能感 (2)——		
ソクラテスは論駁法の役割をいかに理解したか	伊集院 利 明	254
——『メノン』編再考—— (その二)		

第 119 輯 1999.7

体系への道 ——初期ヘーゲル研究 (六) ——	寄 川 条 路	1
『山の音』 ——〈魔界〉とその美	秋 山 公 男	27
「英米作家叢書」の歩み (その六)	清 水 一 嘉	51
——タウフニッツ社の歴史とともに——		
メルヒェンの出会い	土 屋 洋 二	140
ドロステ=ヒュルスホフとヴィルヘルム・グリム ——民話蒐集をめぐる伝説のなかで——		
Performing FTAs: Are the Japanese and the British similar or different? ..	三 川 克 俊	152
海外・帰国子女の生涯キャリア発達	武 田 圭 太	174
——国内子女と在米子女の有能感 (3)——		

ソクラテスは論駁法の役割をいかに理解したか	伊集院 利 明 190
——『メノン』編再考——（その三）	
1998 年度大学院文学研究科・中国研究科修士論文目録	
文学部卒業論文目録・文学会賞授賞卒業論文要旨	75